



**駿大スポーツ
ニュース**
発行 駿河台大学 経営企画室
〒357-8555 埼玉県飯能市阿須698
☎ 042-972-1135
http://www.surugadai.ac.jp



平賀選手 2度目の箱根路も快走!!

3区2位相当!

第93回箱根駅伝で

平賀選手

お正月の風物詩となった東京箱根間往復大学駅伝(以下箱根駅伝)。1月2日・3日に行われた第93回箱根駅伝で、本学駅伝部の平賀喜裕選手(現代文化学部4年・山梨県立韮崎高校出身)が関東学生連合チームとして出場し、素晴らしい走りを見せた。

平賀選手が走った第3区(戸塚〜平塚)は、市街地から海岸線を走る21.4キロのコース。前半の市街地では小さなアップダウンがあり、海岸線に向けて穏やかな下りが続く。後半の海岸線は左手に相模湾、正面には富士山を望む箱根駅伝一の景勝地だが、時として吹く強い風が選手の行く手を阻むコースでもある。

平賀選手は最下位で襷を受けたにもかかわらず、力強い走りが続き1時間3分32秒のタイムは参考記録(関東学生連合チームはオープン参加のため、参考記録)ではあるものの、区間2位相当の好記録となった。

箱根での快走を終えた1月上旬、平賀選手と駅伝部の徳本一善監督にインタビューを行い、箱根駅伝や今後の事など多岐にわたる話を伺った。

平賀選手インタビュー

2回目の箱根駅伝は前回とは全く違いました。プレッシャーもありましたが、うまく力に変えられたと思います。また今回は自分の走りを見て、後輩たちが箱根駅伝に本気で出たいと思うような刺激を与えられる走りをしたと思っています。

前回は遅いと感じていましたが、区間中盤あたりで前を走る選手が見え、いけるかなと前を追いかけて走りました。15キロ過ぎからは少しきつくなりましたが

後輩たちに刺激を与えられる走りをしたい

後ろを走る監督車からの声や周りの応援が力になりました。特に沿道にいた駿大の応援団の前を走ると力をもらえ、体が楽になった気がしました。タイムはあまり気にしていません。ですが、途中で監督車からタイムを教えてもらった時に、もう少し頑張ればいけるかもと思いました。

スタートから一人で走っていましたが、普段の練習も一人でやるのが多いので、特に気にはなりません。むしろ自分のペースを作ることができてよかったと思っています。

後輩たちには箱根駅伝に出場することはもちろんですが、特に上の学年の選手は継続して練習することで結果を出して下の学年を引っ張ってほしいと思っています。選手層を厚くして安定性を出すことも大切ですし、大きな試合に出場し、他



12月に行われた飯能市長訪問時の写真(左から平賀選手、徳本監督)

徳本監督インタビュー

箱根駅伝の予選会終了後、平賀選手はいくつか記録会があったのでそこピークを合わせられるようなメニューを組みました。連合チームの合宿後も最終的には本人の感覚を大切に、「放牧作戦」で任せていました。

箱根駅伝当日、平賀選手には前半は飛ばさず後半勝負で、とアドバイスしました。区間5番目以内に入らいたいなと思っていましたが、結果は区間の一番本人は区間一桁と言っていましたので、良かったのではないのでしょうか。

平賀選手は勝ちたいと思う気持ちを内に秘めて、淡々とこなす選手です。この4年間、故障などもあり苦労したと思います。がその分成長したと思います。特に3年4年の2年間は私が指示したメニューをすべてこなしました。すべてこなした選手は平賀選手だけなので、それが結果に出ているのだと思います。

2016シーズンはチームに変化が起こった年でした。箱根駅伝に出場する、というところをチーム全員で考え、選手たちが行動しています。選手全員が試合で走れる訳ではありません。走れない選手も自分がチームで何が出来るか、チームでの役割を考えて行動するようになりました。指導者としても考えることが多いシーズンでした。

前回の予選会終了後から、次は箱根に行く！と決意を新たにしています。結果が問われる年になるので、しっかりと結果を残していきたいです。地元の方の応援も多くなり、注目されていると感じています。奥むかし駅伝では、地元の方に「駿大強くなってるね」と応援していたような走りができたらと思っています。

駿大スポーツが大活躍! 2016シーズンを振り返る

2016年は、まさに駿大スポーツ躍進の年となった。特に、秋季に顕著な成績を残した陸上競技部、ハンドボール部、硬式野球部の活躍について振り返る。



女子4×400メートルリレー 決勝3位(記録:3分41秒52)
1走:佐藤彩夏(現代文化学部4年・静岡県立沼津西高校出身)
2走:村上ちほる(現代文化学部2年・白梅学園高校出身)
3走:松本 聖華(法学部2年・埼玉県立坂戸西高校出身)
4走:伊谷 葉奈(現代文化学部1年・静岡県立袋井高校出身)

9月2日(金)～4日(日)にかけて「第85回日本学生陸上競技対校選手権大会」が熊谷スポーツ文化公園にて開催された。本学は、女子4×100メートルリレーと男女4×400メートルリレーが決勝へ進出し、4日(日)最終日、女子4×400メートルリレーで見事3位に入賞を果たした。日本全国の強豪校を相手に決勝で戦えたことは素晴らしい成績といえる。



全日本インカレ、
日本ジュニア選手権、
日本選手権で大活躍!!

10月28日(金)には、日産スタジアムにて「第100回日本陸上競技選手権リレー競技大会」が行われた。リレーの日本一を決める大会で、本学から男女4×100メートルリレー、4×400メートルリレーに出場し、男子4×400メートルリレーで見事、3位入賞を果たした。

また、10月21日(金)から愛知県のパロマ瑞穂スポーツパークにて「第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会」が行われた。この大会は、高校生、社会人、大学生(20歳未満)が一堂に会し、ジュニアの日本一を決める大会でもある。
本学からは、男子400メートルに若林康太(現代文化学部1年・新潟産業大学附属高校出身)が出場し、見事6位入賞を果たした。

9月16日(金)～18日(日)にかけて「第27回関東新人選手権大会」・関東学生リレー競技大会が相模原ギオンスタジアムにて開催された。本学学生が好記録を残す中、女子400メートル決勝で松本聖華さんが優勝した。
女子400メートル優勝(記録:56秒02)
松本 聖華



ハンドボール東日本学生選手権大会が8月9日(火)から岩手県で開催され、本学ハンドボール部はBブロックの第2シードとして参加した。
初戦は新潟大学と対戦し36対15(16-8、20-7)で勝利、2回戦は道都大学と対戦し37対18(20-10、17-8)で勝利、最終戦は東北福祉大学と対戦し、接戦



強豪校はかりの決勝レースで3位入賞という素晴らしい結果となった。
男子4×400メートルリレー 決勝3位(記録:3分09秒93)
1走:若林康太
2走:相山 慶太郎(現代文化学部4年・千葉市立船橋高校出身)
3走:中川 滋貴(現代文化学部3年・豊川高校出身)
4走:伏見 亮(経済経営学部3年・東京学館高校出身)

全日本学生選手権大会
出場!!

11月19日(土)より高松宮記念杯男子59回全日本学生選手権大会が徳島県で開催され、本学は関東学連の代表校として出場。1回戦は大同大学と対戦した。前半は、互いに点数の取り合いとなり前半12対10とリードして終了。後半は大同大学のペースで試合が進み、25対28(12-10、13-18)で惜しくも敗れた。



硬式野球部の1部昇格が決まった。東京新大野球連盟の2部に所属する本学は、秋季リーグにおいて最終戦を終え、8勝1敗1分で本学の優勝が決定。先に2勝した方が1部となる1部・2部入替戦へ出場を果たした。

初戦は11月5日(土)の高千穂大学と岩槻川通球場で行われた。本学は1点を先制し、有利な試合かと思われたが、高千穂大学に2点を入れられてしまい、初戦を1対2で落としてしまった。
6日(日)に行われた第2試合。後がなくなった本学は初回、満塁ホームランを打たれるなど、一挙に5点を先制される。しかし、粘り強く点数を積み重ね、4回に6対5と逆転に成功する。その後も、投打がかみ合い8対5で勝利した。
1勝1敗で迎えた最終戦は、7日(月)に行われた。初回より得点チャンスはあったが、両チームの投手が好投し、なかなか得点を入れることができない。
試合は0対0のまま最終回を迎える。本学はランナー満塁と攻め込み、相手のミスから1点を先制。その後も1点を追加し、2対0で劇的な勝利。3季ぶりに1部に再び昇格した。
試合後は監督・選手はもちろん、父母のみならず喜ぶ溢れるものとなった。
今後硬式野球部の活躍に期待したい。

初戦は11月5日(土)の高千穂大学と岩槻川通球場で行われた。本学は1点を先制し、有利な試合かと思われたが、高千穂大学に2点を入れられてしまい、初戦を1対2で落としてしまった。
6日(日)に行われた第2試合。後がなくなった本学は初回、満塁ホームランを打たれるなど、一挙に5点を先制される。しかし、粘り強く点数を積み重ね、4回に6対5と逆転に成功する。その後も、投打がかみ合い8対5で勝利した。
1勝1敗で迎えた最終戦は、7日(月)に行われた。初回より得点チャンスはあったが、両チームの投手が好投し、なかなか得点を入れることができない。
試合は0対0のまま最終回を迎える。本学はランナー満塁と攻め込み、相手のミスから1点を先制。その後も1点を追加し、2対0で劇的な勝利。3季ぶりに1部に再び昇格した。
試合後は監督・選手はもちろん、父母のみならず喜ぶ溢れるものとなった。
今後硬式野球部の活躍に期待したい。

硬式野球部の1部昇格が決まった。東京新大野球連盟の2部に所属する本学は、秋季リーグにおいて最終戦を終え、8勝1敗1分で本学の優勝が決定。先に2勝した方が1部となる1部・2部入替戦へ出場を果たした。
初戦は11月5日(土)の高千穂大学と岩槻川通球場で行われた。本学は1点を先制し、有利な試合かと思われたが、高千穂大学に2点を入れられてしまい、初戦を1対2で落としてしまった。
6日(日)に行われた第2試合。後がなくなった本学は初回、満塁ホームランを打たれるなど、一挙に5点を先制される。しかし、粘り強く点数を積み重ね、4回に6対5と逆転に成功する。その後も、投打がかみ合い8対5で勝利した。
1勝1敗で迎えた最終戦は、7日(月)に行われた。初回より得点チャンスはあったが、両チームの投手が好投し、なかなか得点を入れることができない。
試合は0対0のまま最終回を迎える。本学はランナー満塁と攻め込み、相手のミスから1点を先制。その後も1点を追加し、2対0で劇的な勝利。3季ぶりに1部に再び昇格した。
試合後は監督・選手はもちろん、父母のみならず喜ぶ溢れるものとなった。
今後硬式野球部の活躍に期待したい。



リーグ戦
1部・2部入替戦勝利!
1部昇格決定!!



入替戦は厳しい戦いが続きましたが、スタンドで応援してくれた選手やグラウンドで共に戦った選手、グラウンドスタッフや幹部、野球部全員の力で勝つことができました。
来季は1部からのスタートとなり、まだまだやることはたくさんありますが、これからも応援よろしくお願いたします。

倉田拓也主将(現代文化学部3年・東京都立八王子北高校出身)コメント
秋季リーグ戦では、初の2部優勝を果たし、1部6位の高千穂大学との入替戦を2勝1敗で勝利し、2度目の1部昇格を達成できました。
入替戦は厳しい戦いが続きましたが、スタンドで応援してくれた選手やグラウンドで共に戦った選手、グラウンドスタッフや幹部、野球部全員の力で勝つことができました。
来季は1部からのスタートとなり、まだまだやることはたくさんありますが、これからも応援よろしくお願いたします。



硬式野球部